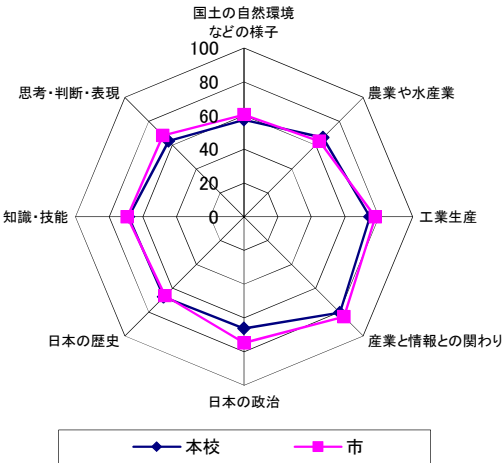


宇都宮市立宝木小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	57.4	60.5	65.8
	農業や水産業	66.3	63.3	66.0
	工業生産	74.6	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	80.4	83.8	76.6
	日本の政治	66.3	74.9	74.1
	日本の歴史	67.4	66.3	68.3
観点別	知識・技能	68.4	69.3	71.4
	思考・判断・表現	63.4	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	本校の正答率は、市の平均と比べるとやや低い。 ○日本の周辺の海洋名を選ぶ問題の正答率は、78.3%で市の平均より4ポイント高い。 ●日本の海岸線が中国よりも長い理由について地図を参考に考えて記述する問題の正答率は、50.0%と市の平均より14ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日本周辺の海洋名など、知識の定着が必要な問題に関しては、ワークや復習などにより定着が見られるが、資料から考えて記述する問題の正答率が低いことから、資料をもとに考えることや考えたことを自分の言葉で文章にすることが苦手だと考えられる。授業を中心に資料を読み取るだけでなく、そこから何が分かるのかを考察し文章にまとめる活動を増やし文章化できる力を身に付けられるようにしていきたい。
農業や水産業	本校の平均正答率は、市の平均と比べるとやや高い。 ○食料の輸入量が増えることによる問題点として正しいものを選ぶ問題の正答率は、72.8%で市の平均より5.6ポイント高い。 ●日本の主な食料の自給率のグラフから小麦にあてはまるものを選ぶ問題の正答率は、市の平均を2.8ポイント上回っているが、39.1%と低い。	・生活に直結している食料についての日本の課題については、生活に直結しているため実感を伴い理解が深まったと考えられる。自給率が低いことは理解しているので主な食料の自給率についてもただの知識として覚えるのではなく、身近に作られているものや日本の地形や気候などと結び付けて考えるように授業で取り扱い、資料と自分の生活を直結して捉えられるような思考を身に付けられるようにしていきたい。
工業生産	本校の平均正答率は、市の平均と比べるとやや低い。 ○自動車部品を再利用する目的としてふさわしいものを選ぶ問題の正答率は、87.0%で市の平均と同等である。 ●自動車の製造工程について写真と説明からどの作業かを選ぶ問題の正答率は83.7%と高いが、市の平均より6.5ポイント低い。	・自動車工場についてはSDGsなど現在の社会の現状から再利用の目的などを理解が深まったと考えられる。また、映像資料を利用して自動車の製造工程を視覚的に学べるよう授業を展開した結果、知識が定着していると考えられるため、実際に自動車工場を見学するなど、より実感の伴った知識となるような活動を取り入れ知識を深められるようにしていきたい。
産業と情報との関わり	本校の平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○情報の発信と受信の注意点を考える問題の正答率は92.4%と9割を超えると共に市の平均と同等である。 ●森林を守るための間伐について正しいものを選ぶ問題の正答率は、71.7%で市の平均より11ポイント低い。	・情報については、テレビやインターネットをはじめ、関心が高く普段の生活にも深く関係していることから、生活と結びつけて考えることができたため、正答率が高くなったと考えられる。産業についても生活と結びつけること知識の定着を図れるので、今後は間接的にも社会と自分の生活が結び付いていることを授業で意識的に取り上げるようにして学習を進めていきたい。
日本の政治	本校の平均正答率は、市の平均より低い。 ○日本がかけている核兵器に対する方針について正しいものを選択する問題の正答率は、89.1%と9割近い正答率である。 ●議会政治について資料をもとに記述する問題の正答率は43.5%で市の平均より9.5ポイント低い。	・平和主義については、今の社会の状況と比べ結び付けることで理解が深まったと考えられる。議会政治についても、実感が伴うような身近な学校に例えて捉えられるようにしたが定着しなかったため、しくみについて自分でノートにまとめたり説明したりする機会を設け、記述に慣れると共に知識の定着を図るようにしたい。
日本の歴史	本校の平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○6紀から11世紀の天皇中心の政治の様子や日本風の文化が生まれた頃の様子について文化と人物の組み合わせを選択する問題の正答率は80.4%で、8割を超えると共に市の平均より12.5%高い。 ●元との戦いについて理解をもとに、防塁が築かれた場所を判断して選択する問題の正答率は37.0%と低く市の平均よりも6.5ポイント低い。	・歴史については、興味、関心があり、意欲的に学習に取り組んでいる児童が多く見られる。誰が何をしたのかをおさえながら授業を展開した結果、知識が定着したと考えられる。知識だけでなく、歴史的事象の理由やそれに対する自分の考えなどをもつような活動も取り入れ、思考力や判断力を高められるようにしていきたい。